

## 平成29年度 学校法人尚絅学園事業計画書

### I. はじめに

尚絅学園は平成25年度に学園の将来計画である「長期ビジョン(将来像)と中長期行動計画」をスタートさせ、その後、学園を取り巻く環境変化や、計画の進捗状況を勘案し、平成27年度に第1回目の改定として計画の一部見直しを実施しました。しかし、社会環境の変化や学園を取り巻く環境変化は急速に進む一方、平成28年4月の熊本地震の影響もあり、中長期行動計画を再度見直し、平成29年度より取り組むこととしました。

今回の見直しは、今後の学園並びに各設置校の教育・研究及び管理・運営の指針として制定した「尚絅学園グランドデザイン」のもと、中長期行動計画の位置付けを明確にした上で、中長期行動計画と単年度事業計画の関連性を一層強固にし、「建学の精神」「教育理念」の実現を目指してまいります。

### II. 主な施策

#### 1. 学園全体・学校法人

本学園が教育研究機関として社会の要請に応え、学生生徒が充実した快適な学校生活を実現するためには財政基盤の確立が不可欠であるとともに、組織・運営態勢の改革、人事・人材改革、環境整備改革を不断なく続けていくことが必要です。

- 組織・運営態勢改革においては、規律と誠実性を維持しつつ、急速に変化する環境変化に迅速に対応すべく、今以上にガバナンス機能・組織マネジメントを強化し、組織力を結集してまいります。
- 財政改革においては、少子化等の影響による学生・生徒の確保が一層厳しさを増すなど、収支バランスの不安定化が予測される中、安定した財政基盤の確保と収支のバランスの確保に努めます。
- 人事・人材改革においては、学園・学校に有為かつ適正な人員を確保しながら、教職員一人ひとりの資質・能力の向上に努めます。
- 環境整備改革においては、今回の熊本地震での教訓を活かしつつ、教育研究活動充実のための施設設備計画を確立し、環境整備を進めるとともにIT環境の整備・構築に努めます。

#### (1) 組織・運営態勢改革

重点施策	具体策
1. ガバナンス機能の強化とコミュニケーションの確保 (1) 戦略的意思決定の機能性と誠実性の確保 (2) リーダーシップとボトムアップのバランスの確保  (3) 三様監査体制による監査機能の強化と内部統制の確立	① 理事会・常勤理事会での意思決定の迅速かつ着実な周知及び実施 ① リーダーシップの発揮とそれを支える為の補完的仕組みの充実 ② 教職員による主体的・自主的な意見具申の醸成とそれをくみあげる仕組み作りの構築 ① 内部監査室による監査機能の強化と業務への反映及び監事・監査法人との連携 ② 監事と監査補助者による業務監査の充実 ③ 期中の監査法人監査への学園監事の立会いと意見交換
2. 組織マネジメントの強化と業務執行の機能性の拡充 (1) 規程の整備と厳格な運用による権限と責任の明確化及び機能性の確保 (2) 法人部門と教学部門の機能・役割の明確化と連携強化  (3) 自己点検評価・外部評価を活かしたPDCAサイクルによる業務執行の機能性の確保	① 現規程の計画的見直しと関連規程・業務との整合性の検証 ② 内部統制により、所定の範囲を超えた決裁権限行使の抑止 ① 常勤理事会による意思決定の周知徹底と業務遂行の検証の継続 ② 事務部門会議による法人部門と各学校の役割分担の明確化と施策の実施状況の把握 ③ 各委員会の機能強化と年度実施計画の進捗管理 ① 自己点検評価・外部評価の結果、抽出された課題の業務への反映
3. 広報戦略の強化 (1) 戦略的広報計画の立案と一元化の推進 (2) アカウンタビリティに基づく正確かつ適宜適切な情報開示及び機動性のある広報体制の構築	① 学園事務局による学園広報予算の一元管理と執行状況の検証 ① 正確かつ適切な情報公開の実現 ② 新たな広報媒体や広報手段の調査・研究

	③ 学園広報の年間スケジュール立案と管理
4. 職場環境の改善 (1) コンプライアンスに基づいた業務執行と人権・人格を尊重し、品位・品格のある職場風土の確立 (2) 時間管理の徹底と余暇時間の創出による自己啓発の醸成	① 行動規範を理解・認識し実践・遵守の周知徹底 ② 教職員によるあいさつ運動の徹底 ① 時間管理の厳格な運用と実態調査の実施 ② 業務内容の見直しによる事務の簡素化・効率化
5. 組織力の結集 (1) 教職員の連携・協働による業務執行体制の確立 (2) 同窓会・後援会・保護者会の組織力の増強と設置校・法人との連携強化	① 教職員の職務の相互理解の促進 ② 新規採用職員・中堅職員等段階的な資質能力の向上に繋がる研修の実施 ① 同窓会・後援会・保護者会と、学校・法人との連携によるイベント(ホームカミングディ等)の実施 ② 同窓会連絡協議会の活用 ③ 125周年記念育英奨学寄附金募集活動の支援依頼の継続

(2) 財政改革

重点施策	具体策
1. 安定した財政基盤の確立 (1) 中期財務計画に則った財務運営の実現 (2) 着実な施設設備資金積立の実施	① 中期財務計画の改定とそれに基づく財務運営の検証 ② 財務分析による実態把握と理事会等への報告 ① 中期財務計画に則った施設設備資金積立の実現
2. 基本金組入前当年度収支差額の黒字化と収支バランスの確保 (1) 学生生徒等納付金の着実な積上げによる収入源の確保 (2) 国の施策や地域社会のニーズに適合した改革に取り組むことによる特別補助及び加算額の獲得 (3) 収入の多様性を図るための外部資金や寄付金等の新たな財源の確保 (4) 業務の合理化や取引先の多様化等による恒常的経費削減策の展開 (5) 予算編成の精緻化と予算執行及び会計の適正化	① 各学校及び学部学科の学生生徒募集状況の分析と施策の検証 ② 各学校への入学志願者に関するデータ収集と分析結果を活かした募集活動の実施 ③ 他学の学部学科構成と学生募集状況の分析結果に基づいた改組の検討 ① 特別補助対象事業に関する情報収集と採択条件となる課題への積極的対応 ② 加算対象の要件となる情報公開項目等の把握と早期の対応 ① 125周年育英奨学寄附金第2期(27/4～30/3)募集の継続 ② 教職員の連携による科研費等外部資金獲得のための情報収集と積極的応募 ③ 民間の機関及び企業等が拠出している研究費や寄附金の獲得 ④ 新たな寄附金の調査・研究 ① 提案制度による効率化案の積極的採用と職員の業務効率化意識の醸成 ② 既存取引先との取引条件見直しや新規取引先の採用検討を推進 ① 必要性・有効性・経済性の観点からの予算編成及び予算執行の調査 ② 合規性・適正性・効率性等の観点からの会計の適正化

(3) 人事・人材改革

重点施策	具体策
1. 人事計画・人事管理体制の確立 (1) 人事採用計画に基づく適切な採用選考と適正人員の確保 (2) 適材適所への配属と非常勤教員・非正規職員を含めた適正人員の確保 (3) 公平性・公正性・納得性のある人事評価の確立と昇給・昇格への反映	① 自己申告書の活用による退職把握と採用計画への反映及び適材適所への人員配置 ② 事務職員の事務量把握と人員配置の見直し ① 業務量等と合致した適正人員の算出と人事計画の立案 ② 業務の互換性向上のための人事異動の実施 ① 考課者訓練の充実による評価の適正化 ② 評価結果の確実なフィードバックによる能力開発や意欲の創出 ③ 適正評価のための制度改善への継続的取組
2. 教職員の資質・能力向上と職能開発の推進 (1) 人材育成計画に基づく研修体制の確立と有効性	① 私大協、日短協、コンソーシアム等外部研修への計画的・積極的な参加

のある運用 (2) FD・SDの活用及び教職員の企画・提案力の育成	② 事務職員の学内研修体制の構築と実施 ① 問題発見・解決能力・企画提案力等のFD・SDセミナー実施及び参加
--------------------------------------	---

(4) 環境整備改革

重点施策	具体策
1. 施設設備計画の確立と環境整備の推進 (1) 既存施設設備の有効活用と整備の促進  (2) 建替え等を含めた施設設備将来計画の立案と実施  (3) 快適なキャンパスライフの実現と学外利用の促進	① 既存施設の学外利用を含めた活用方法の検討 ② 図書館の市民開放結果の検証と活用方法の検討 ③ 尚綱学舎の利用状況の分析と今後の利用促進策の策定 ① 両キャンパスの中長期的施設設備計画作成作業への着手  ① 学生・教職員からの要望事項の把握と要望対応計画の策定 ② 中高スクールバスの運行の実施
2. 危機管理態勢の強化 (1) 諸リスクに対する体制整備と機動的な運用 (2) 防犯・防災計画に基づく態勢整備と備蓄等の実施	① 定期的な危機管理委員会の実施 ① 今回の熊本地震の教訓を活かした対策の実施 ・ハード面(構造物・非構造物等)の調査・検証 ・ソフト面(連絡体制・避難体制等)の調査・検証 ・地域自治体等との連携 ② 防災訓練、避難訓練の計画的実施 ③ 防災のための施設点検と危機管理体制の整備 ④ 備蓄用品の計画的購入と周知
3. IT環境の整備と構築 (1) システム管理体制の確立と快適なシステム環境の実現 (2) システム投資計画に基づく戦略的なIT環境の構築	① サーバー管理体制・学内ネットワーク体制の実態把握と見直し ② 情報セキュリティポリシー策定とその対策の実施 ① 外部委託等も含めた再構築の検討

2. 尚綱大学・尚綱大学短期大学部

大学・短期大学部は、新たに制定された全学グランドデザイン及び改定された「長期ビジョン(将来像)と中長期行動計画」に基づいて事業計画を策定し、教育・研究・学生支援・社会 連携等の活動に取り組みます。

教育面においては、社会的ニーズの調査・分析に基づき、カリキュラムの整備、教育体制・教育方法の改善を進め、意欲的な学生の増加に努めるとともに、リメディアル教育を実施し、学修成果の計測と向上方策に基づき質の高い教育を実施します。特に現代文化学部を設置に向けて準備を進め、入学者確保を図ります。研究面においては、研究倫理を定着させ、研究環境の整備を進め、外部資金等の獲得を支援し、教員の研究活動を活性化して、研究成果の向上を図ります。学生支援に関しては、経済的・精神的に課題を抱えた学生及び障がいをもつ学生に対してきめ細やかなケアと支援を行い、学生の休学・退学の減少に努め、サークル活動等への支援と適切な指導を行い、快適な学園生活環境を作ります。

社会連携に関しては、研究センターのいっそうの活性化を図り、産学官との連携を強め、教育研究成果の向上と成果の発信に努めます。

また、IR機能の強化を進めるとともに、自己点検評価を適切に行い、報告書を作成して認証評価機関による評価を受け、PDCAサイクルの確立に努めます。さらに、教職員のスキルアップを図るためのSDの義務化を推進します。

(1) (教育)意欲的な学生の受け入れと質の高い教育の実施

重点施策	具体策
1. 意欲的な学生の確保 (1) 高校生及び社会のニーズの調査と分析	① 幼児教育4年制課程に関するニーズ調査の実施 ② 生活科学部及び食物栄養学科のカリキュラムにおいて取得できる資格に関する調査研究 ③ 総合生活学科の大幅定員未充足に対する改革の検討

<p>(2) 入試方法の改善</p> <p>(3) 広報活動の活性化</p> <p>(4) 高大連携の推進</p> <p>(5) 同窓会との連携強化</p>	<p>① 入試結果及び入試区分毎の学生の入学後の状況に関する調査分析を踏まえた入試方法の改善</p> <p>② 学力を構成する3つの要素を踏まえて多面的・総合的に評価する入試方法の検討</p> <p>③ 大学入学希望者学力評価テスト活用に向けた入試方法の研究</p> <p>④ 地方試験実施の検証と検討</p> <p>⑤ 志願者増加に有効な奨学金制度等の検討と導入</p> <p>① オープンキャンパスの実施内容・方法の改善</p> <p>② 高校訪問・進学ガイダンス等による学生募集活動の充実</p> <p>③ 栄養士・管理栄養士・保育士等職業に関する説明会開催</p> <p>④ 学科HPでの情報提供の活性化</p> <p>⑤ 「キャンパスガイド」の内容改善及び現代文化学部の広報冊子の作成と効果的配付</p> <p>⑥ 学園・大学ウェブページやSNSを活用した情報発信方法及び広報ツールの検討</p> <p>⑦ 外国語版ウェブページ制作の検討</p> <p>⑧ 入試アドバイザーの検証と活用方法についての検討</p> <p>① 入学前教育、出前授業、高大連携授業等の積極的展開</p> <p>② 尚綱高校との高大進学連絡会・連携事業・連携授業・懇談会の推進</p> <p>① 同窓会との連携強化及び受験者情報の収集・提供等の拡大</p>
<p>2. 質の高い教育の実施</p> <p>(1) 建学の精神、尚綱の教育理念に基づく自校教育の推進</p> <p>(2) 教育課程の点検と改革及び学部・学科の新設・改組の検討</p> <p>(3) 教育体制及び教育方法の点検と改善</p> <p>(4) FD及びSD活動の推進</p> <p>(5) 学修成果の計測と評価</p> <p>(6) 学修支援の強化及び学修成果の向上</p>	<p>① 建学の精神及び教育理念の内容を盛込んだ初年次教育の実施</p> <p>② 3つのポリシーの整合性の点検・改善</p> <p>③ 初年次教育教材の開発の検討</p> <p>④ 教職員によるあいさつ運動の徹底</p> <p>① 新学科設置の検討</p> <p>② 新たに取得可能な資格等導入の検討</p> <p>③ 幼児教育4年制課程設置の研究・調査・検討</p> <p>④ 履修マトリックスの作成及び配布</p> <p>⑤ カリキュラムが学修効果を上げているかについて点検・改善</p> <p>⑥ 文化言語学部改組に伴う新学部設置準備</p> <p>⑦ 教職に関する再課程認定の準備</p> <p>⑧ シラバス作成ガイドラインの作成の検討</p> <p>⑨ 教養教育部会における教養教育体制の強化</p> <p>① シラバス内容の点検・改善</p> <p>② 授業改善アンケートの結果に基づく教育方法の点検・改善</p> <p>③ オープンクラスウィークの継続実施</p> <p>④ 全学共通教養科目導入の検討</p> <p>⑤ 学修支援のあり方についての検討</p> <p>⑥ 障がい等特別支援を要する学生への学修支援体制の整備</p> <p>⑦ シラバス作成手引きの作成検討(平成30年度版)</p> <p>⑧ 委員会活動の充実</p> <p>⑨ 学長・学長補佐体制の強化</p> <p>① FD及びSD活動を推進するための組織体制の整備</p> <p>② FD及びSD活動の年間計画の策定及びその確実な履行</p> <p>③ 教員相互の授業参観の実施</p> <p>④ 学内研修会、勉強会の開催</p> <p>⑤ 外部団体主催の研修会・勉強会への積極的な参加</p> <p>① PROGテストの活用</p> <p>② 学修成果の把握に向けた改善策の検討</p> <p>③ 卒業生に対するアンケート等動向把握</p> <p>① 習熟度別授業の実施</p> <p>② 少人数教育(卒業セミナー)の導入に向けての準備</p> <p>③ 教育環境の整備</p>

<p>(7) 免許・資格取得のための教育課程・指導体制の整備</p>	<p>④ 基礎学力の向上対策(校外実習対策や入学前スクーリング、国語・数学等基礎教科に関する課外授業の実施等)</p> <p>⑤ 授業についていけない学生への支援</p> <p>⑥ 事前事後の学習時間を確保する工夫の実施</p> <p>⑦ 授業科目の見直し(廃止及び新設)</p> <p>⑧ 全専任教員によるオフィスアワーの実施</p> <p>⑨ 学修理解向上に向けた取り組み</p> <p>① 教員採用対策講座の実施</p> <p>② 管理栄養士国家試験合格率向上のための対策指導の継続</p> <p>③ 栄養士免許、食品衛生監視員・食品衛生管理者の資格取得に向けた指導の継続</p> <p>④ 栄養教諭一種免許状取得課程での教育指導の継続</p> <p>⑤ 取得可能な新たな資格・免許導入の検討</p> <p>⑥ 栄養士実力認定試験の実施・試験結果の分析とその活用</p> <p>⑦ 教員免許状更新講習の開講</p> <p>⑧ 学生の履修指導、免許・資格申請事務に関する指導及び業務内容の見直し</p> <p>⑨ 履修マトリックスの作成・配付</p> <p>⑩ 教員免許状施行規則等の法令改正に伴う対応</p> <p>⑪ 教育実習の準備及び実施と反省</p> <p>⑫ 教職実践演習の実施と改善</p>
------------------------------------	---

(2) (学生支援)安全で快適な学修環境の整備と学生の就学・進路支援

重点施策	具体策
<p>1. 安全で快適な学修環境の整備</p> <p>(1) 教育施設のバリアフリー化を含む整備と安全管理</p> <p>(2) 防犯・防災のための危機管理体制の整備と強化</p> <p>(3) 図書館の整備と図書館活用の推進</p> <p>(4) 情報環境の整備</p> <p>(5) ハラスメントの防止</p> <p>(6) 学生の心身の健康維持・向上及び障がいを持つ学生への支援</p>	<p>① 講義室・事務室照明のLED化検討</p> <p>② ラーニングコモンズ等施設の整備</p> <p>③ 障がい等特別支援を要する学生に対する環境整備</p> <p>① 防災・防犯対策用品の整備</p> <p>② 学生及び教職員の防災意識の向上</p> <p>① 図書館資料の充実、ラーニングコモンズ等図書館活用の実施</p> <p>① ポートフォリオシステム導入を目的とした検証作業の実施</p> <p>① 学生生活実態調査の集約</p> <p>② 保健室・カウンセラーの学生相談状況の報告集約</p> <p>① 保健室・カウンセリング利用状況調査の活用</p> <p>② 「疲労蓄積度調査」の活用</p> <p>③ 学生生活実態調査の集約</p> <p>④ 疲労蓄積度調査の集約</p> <p>⑤ カウンセリング活用策の検討</p>
<p>2. 学生生活に対する支援</p> <p>(1) 中途退学防止への取組</p> <p>(2) 学納金の免除・減額制度導入の検討</p> <p>(3) 奨学金・表彰制度の充実</p> <p>(4) 学生寮(如蘭学寮)の整備と管理</p>	<p>① 担任制度の活用</p> <p>② 現状把握と中途退学者防止策の検討</p> <p>③ 問題の早期発見に向けての観察の強化及び情報の共有</p> <p>④ 特別支援学生の支援</p> <p>⑤ 障がい等特別支援を要する学生への支援</p> <p>⑥ 疲労蓄積度調査の集約</p> <p>⑦ 保健室・カウンセラーの学生相談状況の報告集約</p> <p>⑧ 授業料免除に関する現行制度の周知</p> <p>① 新制度に向けての検討</p> <p>① 奨学金制度の検討</p> <p>② 各種奨学金の周知、事務の充実</p> <p>① 現状把握及び改善事項の対応</p>

<p>3. 自治的活動の活性化に対する支援</p> <p>(1) サークル活動活性化の支援</p> <p>(2) ボランティア活動の支援</p> <p>(3) 尚綱祭の支援</p>	<p>① サークル活動費使用等に対する助言と支援</p> <p>② サークル活動の実態把握と活動に関するサポート</p> <p>③ クラブ・サークル広報の強化</p> <p>④ クラブ室の環境整備</p> <p>① ボランティア登録の普及</p> <p>② センター説明会の実施とセンターに関する周知活動の強化</p> <p>③ ボランティア活動報告書の集約</p> <p>① 尚綱祭に対する助言と支援</p>
<p>4. キャリア形成・就職支援</p> <p>(1) キャリア形成・就職支援活動の充実</p>	<p>① 個別面談等「就職(進路)指導」計画の立案と運用</p> <p>② 就職試験・採用試験における筆記試験対策の強化</p> <p>③ キャリアガイダンス及びインターンシップの実施</p> <p>④ 「就職懇談会」の実施</p> <p>⑤ SPI勉強会の継続と内容の改善</p> <p>⑥ 資格取得・能力認定試験に関する支援体制の構築と実施</p> <p>⑦ 就職未内定者に対する個別支援の強化</p>

(3) (研究)教職員の研究倫理の遵守と研究力の向上及び外部資金の獲得

重点施策	具体策
<p>1. 研究倫理の遵守</p> <p>(1) 研究倫理の遵守のための諸活動の推進</p>	<p>① 研究倫理規程・生命倫理規程・競争的資金等の管理等に関する規程の周知及び遵守の徹底</p> <p>② 研究倫理に関する啓発活動</p> <p>③ コンプライアンス研修会の開催</p> <p>④ 研究者行動規範教育eラーニングの受講の実施</p>
<p>2. 研究力の向上と研究活動の活性化</p> <p>(1) 教員の研究力の向上と研究活動の活性化</p> <p>(2) 研究環境の整備</p> <p>(3) 尚綱子育て研究センターの研究力向上と活動の活性化</p> <p>(4) 尚綱食育研究センターの研究力の向上と活動の活性化</p>	<p>① 科研費及び民間助成金への応募体制の整備及び推進</p> <p>② 包括協定自治体と連携した研究活動の推進</p> <p>③ 研究成果の積極的な学会発表や論文への掲載</p> <p>④ 外部資金等に関する研修会の開催</p> <p>⑤ 外部資金の周知</p> <p>① 共同実験室の整備の充実(2号館2階)【生化学実験、解剖生理学実習Ⅰ、衛生学実習】</p> <p>② 給食経営管理実習室の整備の充実(2号館1階)【給食経営管理実習、調理学実習Ⅲ】</p> <p>③ 調理実習室調理器具の補充及び代替品の購入(1号館4階栄養調理実習室、2号館1階給食経営管理実習室)【給食経営管理実習、調理学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】</p> <p>④ 研究のための施設設備の整備計画の策定</p> <p>⑤ 研究のための時間の確保に向けた対応策の策定</p> <p>⑥ 外部資金獲得のための支援</p> <p>① 乳児保育研究会の定例開催</p> <p>② 保育の質向上に向けた保育者の早期離職予防に関する調査の分析結果を踏まえた早期離職予防のための条件整備の課題検討(COC+)</p> <p>③ 保護者支援、子育て支援に関する調査結果の分析とまとめ(COC+)</p> <p>④ 「見やらい」第14巻及び臨時増刊号の発行</p> <p>⑤ 尚綱こども園との連携に基づく発達支援、保護者支援における相談活動及び相談体制の充実</p> <p>⑥ 尚綱こども園保育・教育実践における専門知識の提供及び相談体制の充実</p> <p>⑦ 学園ウェブページによる情報発信</p> <p>① 郷土料理教室の実施</p> <p>② レンピコンテストの開催</p>

	③ 食生活状況調査結果に伴う食育に関する課題精査の実施
3. 研究費の効果的配分と外部資金の獲得 (1) 研究経費の効果的配分 (2) 外部資金獲得の支援	① 研究費配分割合についての研究 ① 外部資金に関する情報提供と申請に関するサポート

(4) (地域連携・社会貢献) 地域連携の推進と社会貢献の拡充

重点施策	具体策
1. 産学官民との連携 (1) 尚綱子育て研究センターの地域連携と地域貢献  (2) 尚綱食育研究センターの地域連携と地域貢献 (3) 尚綱ボランティア支援センターの地域連携と地域貢献 (4) 尚綱地域連携推進センターによる地域連携の推進	① 尚綱子ども園子育て支援室における地域の就園前乳幼児の発達支援、保護者支援への協力(専門知識の提供、企画・運営についての協力・連携) ② 第17回公開シンポジウムの開催 ③ 熊本県地域型保育連絡協議会との協力・連携(定例会議の開催、現任者研修の開催協力) ① 自治体等が実施する各種イベントへの参加 ① 地域社会との連携した活動の促進  ① 熊本市等自治体、公共団体および企業との包括連携協定等の推進 ② 包括連携協定締結先との定期的な共同事業の実施 ③ 武蔵ヶ丘近隣6校区長との定例会議の開催 ④ 連携を研究に幅広くいかすため、全学部学科、3センターおよび国際交流委員会との横断的情報共有 ⑤ サービスラーニングによる地域課題解決のための授業の実施 ⑥ 文化言語学部、生活科学部の教務委員会と連携したCOC+教育プログラム実践 ⑦ 産業界との共同研究、共同事業等の連携強化 ⑧ 3センターとの連携事業推進 ⑨ 地域住民向け国際交流に関するイベントの実施
2. 本学が有する資源の地域社会への還元 (1) 公開講座の開催  (2) 高大連携の推進  (3) リカレント教育の推進  (4) 学校施設等の開放  (5) 社会人学生の受け入れ	① 子育て研究センターの公開シンポジウムと共催実施 ② 卒業生の参加充実 ③ 文化言語学部公開講座の開催 ④ 尚綱公開講座の開催 ① 入学前教育、出前授業、高大連携授業の積極的展開による資源の地域への還元 ② 高大進学連絡会の実施 ① 夏期研修会の継続実施とその充実化の検討 ② 管理栄養士模擬試験の継続実施 ① 地域住民への図書館の開放 ② 利用希望者への体育館や教室等施設の開放 ① 社会人学生志願者増加対策の検討
3. 同窓会との連携 (1) 同窓会との連携によるホームカミングデイの実施と改善	① 来場者増加策の検討 ② 開催プログラムの検討 ③ 本学志願者増加につながる仕組み作りの検討
4. 本学の活動に対する学外者の意見の聴取 (1) 外部有識者会議等の設置の検討	① 委員構成、目的等会議に関する細目の検討

(5) (国際交流) 国際交流の推進

重点施策	具体策
1. 海外の教育研究機関との連携 (1) 国際交流に関するビジョンの策定と基盤整備	① 具体的な数値目標を含む国際化ビジョンの策定 ② 国際交流活動の内容、実績等に関するパンフレットの作成 ③ 留学生、留学経験者向けの就職支援

(2) 既存の提携教育研究機関とのさらなる連携の強化 (3) 新たな教育研究機関との交流協定締結の検討	④ 交換留学生の学生チューターの配置 ⑤ 交換留学生の年末年始宿泊補助の検討 ⑥ 大学のホームページの外国語化の検討 ⑦ 国際交流室の整備と活用 ① 教員の交換と授業や共同研究の実施 ② 研修旅行、短期語学留学、交換留学の実施 ① 英語圏の大学(マレーシア等)との交流 ② 東アジア(中国、台湾、韓国)の大学との交流拡大
2. 留学生の派遣と受け入れ (4) 派遣と受入人員枠拡大の検討と実施	① 慈済大学、仁徳大学校の派遣・受入枠の拡大

(6) (IRと自己点検・評価)IR機能の強化と恒常的な自己点検・評価システムの構築及び認証評価への適切な対応

重点施策	具体策
1. IR機能の強化 (1) 大学企画室機能の充実と強化	① IRの年間計画の策定及びその確実な履行 ② IR業務に精通した人材の育成
2. 恒常的な自己点検・評価システムの構築と実施 (1) 自己点検・評価の定期的実施  (2) 認証評価への適切な対応	① 自己点検・評価の周期の明確化 ② 自己点検・評価の組織体制の強化 ① 認証評価機関への報告書提出 ② 書面質問への適確な対応 ③ 実地調査に向けての準備及び対応
3. PDCAサイクルの確立 (1) PDCAサイクルの確立と徹底	① PDCAサイクルを確立させるための仕組みを検討

3. 尚綱中学・高等学校

平成29年度は中長期行動計画の折り返し点であることを踏まえ、これまで4年間の取り組みを総括し、さらなる事業内容の充実と実施効果の向上を図るべく29年度事業計画を以下の通り策定しました。

(1) 教育内容の充実と尚綱らしさの追求については、「建学の精神」「教育理念」を全教職員及び全校生徒に徹底し、人間教育の一層の充実を図ると共に、学力向上及び進路指導の取り組みを強化して進路結果の向上に努めます。また、国際交流の推進においては、28年8月に韓国蔚山市立鶴城女子中学校との姉妹校を締結したのを機に、同校との交流を推進すると共に、新たな姉妹校提携に向けての取り組みを行います。

(2) 生徒支援の充実については、これまでの事業に継続して取り組むと共に、手薄であったドリー入所生徒のケアに取り組めます。

(3) 学習意欲あふれる生徒の確保については、広報部を中心とした全職員による広報活動を継続して推進し、特待生制度を活用した学業・特技に秀でた生徒の確保に努めます。また、昨年度から取り組んだ学習塾との連携を一層強化するための取り組みに努めるほか、これまでに実施してきた天草での出張入試に加えて、人吉地区での出張入試を行い受験者の掘り起こしに努めます。

(4) 指導力の向上につきましては、年間計画に則り研修の目的を明確にした研修内容の精選による各種職員研修に取り組む指導力の向上に努めます。

(5) 地域貢献の推進では、本校主催の各種大会や部活動の合同練習会等に従来通りに取り組む一方、熊本地震の影響による各種大会の開催会場不足を補うために小・中・高体連等の公式戦会場及び学習塾の模擬試験会場として本校での開催を積極的に誘致して、地域貢献及び広報活動の一助としたいと思います。

(1) 教育内容の充実と尚綱らしさの追及

重点施策	具体策
1. 人間教育プログラムの充実 (1) 諸活動の総合的・計画的な年間計画の策定と実施の推進 (2) 外部組織や外部人材の積極的な活用 (3) 尚綱塾・礼法教育の推進	① 多岐にわたる諸活動を年間計画に則り実施  ① 講演会、学年別講話、各種研修会等に公的機関の人材をはじめ随時活用 ① 礼法教育推進のために、全生徒マナー検定上級資格の取得継続 ② 教職員によるあいさつ運動の徹底



(4) 各種講演会の開催 (5) 図書館教育の推進	① 生徒が受け入れやすい講演を念頭に全校及び学年別の開催を計画実施 ① 朝の10分間読書実施要項に基づき継続実施 ② 定例図書委員会及び図書部研修の定期開催
2. 基礎学力の確立 (1) 魅力ある授業の推進 (2) 課外授業の推進 (3) 尚綱ゼミの推進 (4) 小論文指導の強化 (5) 自学・自習の習慣化	① 教科毎の授業研究会の定着化による教員レベルの向上 ② 外部講師招聘による研究授業の実施 ① 希望制課外(総合・一貫コース)と全員課外(特進コース)の実施と内容の充実 ① 放課後の自学・特別講義の取組を継続(e-Learningは、1年次希望者対象) ② 放課後を利用して、模試対策、大学入試演習及び進級に向けた基本問題演習の実施 ① 総合的な学習の時間を使っての小論文指導、小論文課外、受験に向けての個別指導の実施 ② 生徒向けの小論文講話、職員向けの指導研修の実施 ① 家庭学習の記録帳「志」を活用して生徒の学習時間や内容の確認と指導
3. 各コースの特色づくり (1) カリキュラムの検討 (2) クラス編成の検討 (3) 進路実績の向上	① カリキュラム検討委員会で、高大接続テストに向けて検討開始 ① 生徒の進路ニーズに対応した編成を検討委員会検討 ① 模擬試験の実施と結果分析 ② Fine System(Benesse)、Kei-Navi(河合塾)の活用 ③ コース毎(総合・特進・一貫)の指導者による模試検討会の開催
4. 国際交流の推進 (1) 海外修学旅行の実施 (2) 姉妹校提携の推進 (3) 短期・長期留学の推進と留学制度の策定 (4) 留学生受入の推進 (5) ICC利活用の推進	① 過去4年間の海外修学旅行について内容の検証と行先の再考 ① 姉妹校との定期的な交流を継続、高校も姉妹校の選定を開始 ① 留学担当者を配置し、幅広い留学情報の提供及び希望者へ専門的アドバイスを実施 ② 制度の策定 ① 外部団体との連携による留学生の受入を継続 ② ホストファミリーの開拓 ① 検定用問題集や洋書・英字新聞を活用した英語学習の推進 ② 留学相談の実施
5. 中高大連携の推進 (1) 中高大連携事業の推進による、特色化・差別化の確立 (2) 学園内進学における入試制度の改革 (3) 中高大職員の交流と情報交換の推進 (4) 中高大生・生徒の交流と組織の連携	① 生徒が興味を持つような学部学科説明会の開催や出前講義の実施 ② オープンキャンパスへの積極参加と参加報告書の収集 ① 入試連絡会の実施 ② 大学と高校相互の情報交換の推進 ① 入試連絡会等による相互の情報交換の緊密化 ① 生徒会と学生会の交流推進

(2) 生徒支援の充実

重点施策	具体策
1. 進路指導の充実 (1) 進路相談の充実  (2) 進路情報の収集と生徒・保護者への情報提供の徹底  (3) 高大接続テスト(仮称)の研究及び対策の検討 (4) 県下女子校との連携による進学支援事業の推進	① 進路指導部から各学年、各担任への進路情報提供を徹底し相互の連携を強化 ② 2者面談、3者面談の実施 ① 外部研修会、説明会等への積極的参加による情報収集 ② 進路情報誌「春に向かって」の毎月配付による生徒や保護者への情報発信 ③ 「尚綱通信」の発行 ④ 2学期保護者会での進路講話実施による保護者や生徒への進路情報提供 ① 情報収集と対策及び実施計画の策定 ① 熊本県大学進学支援事業を活用して八代白百合高校と合同で進学予備校の講義を受講

<p>2. 教育相談の充実</p> <p>(1) 個人面談の推進</p> <p>(2) カウンセリングの充実</p> <p>(3) 保護者対象の教育座談会の実施</p> <p>(4) 外部組織・人的支援の活用</p>	<p>① 4月～5月に全校で個人面談を実施</p> <p>② 生徒情報共有化のための職員研修の実施</p> <p>① スクールカウンセラーによる毎週火曜日のカウンセリング実施</p> <p>② 外部専門医との連携強化</p> <p>① 保護者の希望によるスクールカウンセラーを囲む座談会を実施</p> <p>① 熊本県の派遣事業を利用したSSW、発達障害者対策センター相談員との連携</p> <p>② 外部講師による講話(薬物乱用防止、性感染症予防、DV未然防止)の実施</p>
<p>3. 課外活動の推進</p> <p>(1) 生徒会活動の推進</p> <p>(2) 部活動の推進</p> <p>(3) 課外活動(生徒会活動・部活動など)の実績を活かした 推薦入試・AO入試活用による進学指導の推進</p>	<p>① 全生徒が参加する文化祭、体育祭、クラスマッチの内容の充実</p> <p>② 常任委員会活動の活性化</p> <p>① クラブ加入日を1学年集会と連動させて設定</p> <p>② オリエンテーションでのクラブ紹介と1年生全員参加の体験入部期間の設定</p> <p>① 「体育進学センター」の無料セミナー他、推薦・AO入試に関するセミナーへの参加</p> <p>② 部活動生徒及び部活動顧問への推薦・AO入試に関する情報提供及び指導の推進</p>
<p>4. 奨学生制度・表彰制度等の活用</p> <p>(1) 奨学生制度・表彰制度等の活用による学力・特技に優れた生徒への支援</p> <p>(2) 奨学生制度・表彰制度等の再検討</p>	<p>① 育英褒賞、花桜会奨学生の選考</p> <p>② 公的制度の生徒・保護者への周知徹底</p> <p>③ 奨学生の採用及び特待生・奨学生の審査と指導の実施</p> <p>① 総務部と教務部合同で検討</p>
<p>5. 各種検定試験受験の推進</p> <p>(1) 英語検定、マナー検定等への取り組みの継続</p> <p>(2) 級別指導の徹底による成果の向上</p>	<p>① 各種検定受験の推進(中学生は英検を毎年1回全員受験、高校生はGTECを毎年1回全員受験、英検を任意受験)</p> <p>① 各種検定合格のための計画的な指導計画作成と実施</p>
<p>6. 校舎内外の環境美化推進</p> <p>(1) 校内清掃の徹底</p> <p>(2) 環境整備のための植物栽培</p>	<p>① 美化委員会による見回り、毎日の校内清掃の監督・指導の徹底と清掃用具の整備</p> <p>① エコ委員会、ボランティア委員会、美化委員会の連携による校内花壇への花の植栽と手入れ</p>
<p>7. 育友会・後援会・同窓会との連携の推進</p> <p>(1) 保護者会の充実</p> <p>(2) 総会・定例委員会活動への協力推進</p> <p>(3) 地区会の推進と内容の充実</p> <p>(4) 学校行事での連携推進</p> <p>(5) 同窓会・後援会総会等への出席の推進</p> <p>(6) 卒業生名簿の作成</p>	<p>① 各学期に保護者会を実施</p> <p>① 育友会役員、職員協働による総会、委員会の実施</p> <p>① 育友会役員との協働による地区会の開催</p> <p>① 7月文化祭、ホームカミングデー、9月体育祭、11月尚綱コンサート、3月金峰山登山の各行事の開催をホームページ等で周知し、育友会の協力を得ながら実施</p> <p>① 同窓会、後援会の行事に積極的に協力参加</p> <p>① 同窓会事務局と協力して作成</p>

(3) 学習意欲あふれる生徒の確保

重点施策	具体策
<p>1. 広報活動の推進</p> <p>(1) 広報活動の再構築</p> <p>(2) 恒常的な小学校・中学校・学習塾・個別訪問活動の推進</p> <p>(3) 女子教育の強みを活かした広報活動の推進</p> <p>(4) 育友会・同窓会・後援会との連携</p>	<p>① 28年度の全広報活動(訪問活動、説明会、オープンキャンパス、各種広報媒体等)の検証を行い29年度の広報戦略を策定</p> <p>① 全職員による戸別訪問活動と並行し、学習塾との意見交換会を定例化</p> <p>① 礼法教育やマナー検定受験等、女子学園としての特色を周知</p> <p>① 育友会、同窓会、後援会への学校の諸活動及び行事の告知と広報活動の連携強化</p>

2. 特待生制度の活用 (1) 特待生制度の活用による学力・特技に優れた生徒獲得の推進 (2) 特待生制度の再検討	① 小学校、中学校、学習塾、クラブチーム等への訪問・勧誘活動の強化と早期着手 ① 生徒・保護者から見た魅力ある制度の検討
---	---

(4) 指導力の向上

重点施策	具体策
1. 職員研修の推進 (1) 校内研修の充実  (2) 外部研修の推進  (3) 研修内容の共有化と実践の督励	① 学年主任及びコース主任会、教科主任会、若手育成研修会の実施 ② 定期考査の分析と指導法の研究 ① 県教育研修センターの研修他、外部の各種研修会への職員派遣 ② 他校視察研修の実施 ③ 海外語学スクール等の視察 ① 研修報告、研修内容の複講及び研修資料配付の徹底
2. 授業力の向上 (1) 授業力の向上	① 外部講師招聘による全教職員参加の研究授業及び合評会の実施 ② 10年経験者研修の実施

(5) 地域貢献の推進

重点施策	具体策
1. 地域活動の支援 (1) 合同練習会開催の推進  (2) 外部への生徒・指導者の派遣推進 (3) 尚綱塾シニア講座の充実	① 中高体育系部活動において、外部の小・中・高校生との合同練習会の開催 ② 小・中・高各種大会の誘致 ① 各種大会主催者からの要請に応じて派遣 ① 同窓会、育友会、後援会の各会員及び旧職員への呼びかけによる参加者拡大
2. ボランティア活動の推進 (1) ボランティア活動の推進	① 各種ボランティア活動への派遣推進 ② 学校周辺の地域貢献のための清掃活動
3. 学校主催事業の推進 (1) 本校主催の各種大会の開催	① 尚綱コンサート・小学生英語暗唱大会・はなさくらコンサート・尚綱杯ソフトテニス大会の開催

(6) 学校評価

重点施策	具体策
1. 内部評価委員による学校評価の実施 (1) 生徒・保護者による学校評価アンケートの実施 (2) 内部評価委員による自己評価の実施	① 生徒、保護者対象のアンケート調査の実施 ① 自己評価委員、全職員による評価の実施
2. 学校評価委員による学校評価の実施 (3) 学校評価委員による学校評価の実施	① 学校評価委員による評価の実施

4. 尚綱大学短期大学部附属こども園

こども園に移行して1年が経過し、現状の把握と見えてきた課題の整理を行いながら、引き続き、特色ある園づくりを行います。

第一に、本園の特徴である自然環境を活かした教育及び保育を実施するための環境の整備と施設設備の充実、乳児保育や絵本教育等教育及び保育内容の充実を図ります。また、給食の実施による食への関心の高まりをもとに、魅力ある食育活動を推進していきます。

第二に、一時預かり保育や延長保育、特別支援教育等保護者に寄り添った子育て支援を実施するとともに、引き続きバスコース、バス停の見直しをおこない、在園児の保護者支援に努めます。また、地域の子育て中の保護者に対しては、子育て支援室の活動内容の充実を図り、保育体験の実施や大学短期大学部、子育て研究センター、こども園職員による講演会や講習会の実施や相談機能の充実、強化に取り組めます。

第三に、少子化が進む中、本園への入園希望者を確保するために、Webページの充実を図り、説明会とは別に見学会の定期的な開催

を実施し、積極的な広報活動を行います。また、子育て支援室利用保護者が本園教育及び保育の内容を理解し、就園へつながるために職員一人一人が保護者への広報担当としての責任を果たすようにしていきます。

最後に、職員の教育及び保育の指導力向上のために、園内外の研修に積極的に参加することや短期大学部教員とのテーマ別研究、子育て研究センター、食育研究センター等との協力、連携を積極的に行うとともに、地域連携活動にも注力してまいります。

(1) 教育・保育内容の改革と尚綱らしさの追求

重点施策	具体策
1. 豊かな自然環境を生かした特色ある園づくり (1) 自然環境の整備  (2) 特別支援を要する園児への配慮を含めた施設設備の充実	① 東の森をあそびの森にするための自主勉強会の実施 ② 保育棟南側園庭の環境整備 ① 自然環境と調和した遊具の配置 ② 支援の必要な園児への配慮等、教育・保育充実のための施設整備と維持管理
2. 教育・保育内容の充実 (1) 教育・保育体制の充実  (2) 自然を体験する学びの推進	① 教育・保育要領に基づいた年間行事の見直し検討 ② 家庭的な雰囲気の中で過ごせる乳児保育の環境づくり ③ 絵本や物語に親しむ環境づくり ④ 菊陽町公立保育園民営化に関する引き受け可否の検討 ⑤ 教職員によるあいさつ運動の徹底 ① 親と子の豊かな自然体験の推進 ② シイタケ栽培や森の探検等自然を生かした学び
3. 魅力ある食育活動の推進 (1) 畑を活用した栽培と収穫 (2) 調理体験の実施 (3) 食育計画の立案と実施	① 季節に応じて種まき、苗植えから始める栽培、収穫の体験 ① 栽培物での調理体験と親子での調理体験の実施 ① 「食を営む力」を培うための食育年間計画の作成 ② 食べることの喜びや楽しさを実感する体験の充実 ③ 魅力ある献立の提供と食を通して健康、文化、命を感じる教育の実施 ④ 子育て研究センター、食育研究センターとの連携

(2) 園児の確保

重点施策	具体策
1. 広報活動の推進 (1) 入園パンフレット・ポスター及びWEBページの充実 (2) 保護者への説明会・見学会の開催	① 入園パンフレットの内容とポスター掲示場所の検討 ② WEBページの内容充実と「お知らせ」欄の定期的な更新 ① 入園希望者への説明会実施 ② 見学希望者への見学会を定期的実施
2. 子育て支援室の利活用 (1) 積極的案内と利活用の促進  (2) 短期大学部教員との連携強化	① 子育て支援室参加保護者へのこども園教育・保育の紹介及び園見学の実施 ② 子育て支援室利用者の満足度を高めるため、支援室活動内容を充実させる会議実施 ③ こども園職員の一人一人が園の教育・保育内容を見学者に案内できるための研修会の実施 ① 就園を前にした保護者への講演等子育て研究センター等との連携
3. スクールバス運行の工夫 (1) スクールバス運行とバスコース・バス停の検討	① 年度ごとのバス利用者を考慮したバスコース、停留所の見直し検討 ② 各停留所等地域への協力依頼 ③ バスの安全運行のための車検、点検等及び安全運転管理者等講習会への参加

(3) 保護者支援改革

重点施策	具体策
------	-----

<p>1. 在園児保護者への子育て支援</p> <p>(1) 講演会・子育て相談・援助の実施</p> <p>(2) 延長保育・預かり保育の充実</p> <p>(3) 特別支援教育の充実</p> <p>(4) 健康管理の実施</p>	<p>① 1学期と3学期の保育参観後の保護者講演会の実施</p> <p>② 誕生会、おしゃべり広場の充実と個人面談の実施</p> <p>③ スクールカウンセラーの設置と周知</p> <p>① 延長保育の内容充実と利用保護者への連絡体制の強化</p> <p>② 預かり保育と延長保育担当職員の連携協力</p> <p>① 発達相談会の実施</p> <p>② 市、町等特別支援連絡会や研修参加</p> <p>③ 個別指導計画の作成と特別支援教育に必要な教材研究</p> <p>① 内科、歯科検診と尿検査の実施</p> <p>② 園内の衛生検査や衛生管理及び健康管理の徹底</p>
<p>2. 地域保護者への子育て支援</p> <p>(1) 講演会・講習会の開催</p> <p>(2) 保育体験の実施</p> <p>(3) 子育て相談、援助の実施</p>	<p>① 短期大学部教員及び子育て研究センター、食育研究センター等教員による講演会等の実施</p> <p>② 地域ボランティア等外部講師による講演会、講座等の実施</p> <p>① 園庭や支援室での親子遊びの体験</p> <p>② 2歳クラス、満3歳児クラスでの保育参加体験</p> <p>③ 園行事の見学及び参加</p> <p>① 子育て支援室担当職員及びこども園職員による子育て相談や情報提供</p> <p>② 短期大学部教員による子育て相談会の実施</p>

(4) 教育・保育の指導力向上

重点施策	具体策
<p>1. 園内研修の充実</p> <p>(1) 教育・保育課程テーマ研修の開催</p> <p>(2) 乳児保育研修の開催</p> <p>(3) 環境会議の開催</p>	<p>① 教育課程の研修テーマに沿った園内研修の実施</p> <p>② 事例研修会、園内公開保育等園内研修の充実</p> <p>① 乳児保育について年齢別、テーマ別の研修を実施</p> <p>② 子育て研究センター主催の乳児保育研修会に参加、事例発表</p> <p>① 2週間に一度の保育環境会議の開催</p>
<p>2. 研修会・研究会等の積極的参加</p> <p>(1) 全幼研・連合会主催の研修会等への参加</p> <p>(2) 日保協研修会への参加</p> <p>(3) 実技研修会・その他の研修会等への参加</p>	<p>① 全国幼児教育研究協会及び幼稚園連合会主催研修会参加と報告会の開催</p> <p>① 日本保育協会主催の乳児保育及び障害児保育研修会参加と報告会の開催</p> <p>① 実技、実践研修会及び人権研修会等への参加と報告会の開催</p>
<p>3. 短期大学部との合同研修及び研究会の開催</p> <p>(1) 短期大学部との連携</p> <p>(2) 実習生指導計画案の内容検討</p>	<p>① テーマを設定した保育研究の連携</p> <p>② 日常的な保育や保護者対応等の相談</p> <p>③ 子育て研究センター、食育研究センターとの協力及び連携</p> <p>① 幼児教育学科学生による附属園実習の指導内容の確認と研究保育に向けた課題の設定</p> <p>② 幼児教育学科実習担当教員との指導内容、課題等の連絡会実施</p>

(5) 地域連携の推進

重点施策	具体策
<p>1. 地域交流の充実</p> <p>(1) 行事の参加</p> <p>(2) 世代間交流の推進</p>	<p>① 地域の方と園児とのふれあいと交流を目的とした園行事の実施</p> <p>① 地域老人会等、子育ての知識、技術、遊びの伝承を目的とした世代間交流の実施</p> <p>② 中学校、高校等職場体験の受け入れ</p>
<p>2. 幼小連携の推進</p> <p>(1) 職員による学校訪問</p> <p>(2) 連絡会の実施</p>	<p>① 授業参観、幼小連携会議、運動会、入学式、卒業式等への参加</p> <p>① 就学先の小学校との連携や交流を図る連絡会の開催</p>

(6) 学校評価

重点施策	具体策
1. 学校評価の実施 (1) 職員の自己評価の取組 (2) 保護者アンケートの実施 (3) 学校評価委員会の開催と公開のあり方の検討	① 保育教諭等職員による自己評価の実施 ① 在園児保護者と子育て支援室利用保護者へのアンケート実施 ① 委員による評価の実施と学校評価委員会の開催 ② 保護者会や園だより、WEBページ等、結果公表のあり方検討